

令和 5 年 9 月 14 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01202

研究課題名（和文）複合国家性に留意する近代イギリス思想史研究 遠心力と求心力の統御の観点から

研究課題名（英文）British & Irish Intellectual History of Composite state formation with special reference to the balancing their centrifugal and centripetal forces

研究代表者

竹澤 祐丈（Takezawa, Hiroyuki）

京都大学・経済学研究科・准教授

研究者番号：60362571

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：（1）複合国家の事実認識とその思想的な概念化とを関連させて分析することで、16世紀から18世紀のイギリス（イングランド、スコットランド、アイルランド、ウェールズ）における複合国家性を維持する思想的な努力と工夫の在り方を通史的に把握することができた。

（2）過去の特定の統合事例や統合論（ウェールズ合同や愛併合など）が、後代の統合議論、すなわち17世紀後半の名誉革命期、18世紀初頭の英蘇合邦期、ハノーヴァー継承期の議論などにおいて、典型的な重要性を持つ点の把握や統合思想の歴史的な系譜を素描することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

安定性や均質性を持つと見なされたイギリスの現実には、遠心力と求心力を均衡させようとする歴史的な努力の産物（内部に不安定性と非均質性を抱えつつ全体としては安定性・均質性を維持した状態）であるという認識が弱いため、この営為が研究主題になることは少なかったが、そのような視角の重要性を具体例を用いて提示することができた。その結果、内部に文化的・歴史的に異質な複数のユニットを抱える複合的な国家として近世以降のイギリスを把握する視角の重要性が認識され、「複合国家性の維持の工夫と努力」に関する思想的営みに注目が次第に集まりつつある。

研究成果の概要（英文）：The research achievements of this project are as follows:

Firstly, the historical endeavours, techniques, and discourses produced in the early modern Britain and Ireland to maintain the composite state of British and Irish nations were systematically captured and analysed by paying enough attention to the various interconnected links between the historical facts & events, and the conceptualisation & ideas.

Secondly, the historical path-dependencies of previous historical ideas and of conceptualisation with the early modern formation of the British composite state were systematically defined.

研究分野：社会思想史

キーワード：複合国家イギリス アイルランド ウェールズ スコットランド J・G・A・ポーコック 歴史叙述 思想史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の問いとその背景

イギリスの複合国家性を持つ遠心力と求心力を統御・均衡させる歴史的試みは、従来のイギリス思想史研究では的確に取り扱われてこなかったのではないか？

近代化モデルとしてのイギリス観は、その「政治的・社会的な安定性」や「領域内の文化的な均質性」などに焦点を持つが、実在するイギリスが、異なる文化や歴史性を帯びた複数のユニットからなる「文化的に非均質なユニット間の軋轢」という不安定性を持つ複合国家性である側面は相対的に等閑視されてきた。すなわち安定性や均質性を持つとされたイギリスの現実、遠心力と求心力を均衡させようとする歴史的な努力の産物（内部に不安定性と非均質性を抱えつつ全体としては安定性・均質性を維持した状態）であるという認識が弱いため、この営みが研究主題になることは少なかったのである。

そしてこの問題に焦点が当てられる場合（例えばアイルランド問題）でも、併合と独立の単純な二項対立的議論が展開される傾向にあった。本研究はこれらの問題点を意識し、近世以降の現在のイギリスにとって重要な課題である「複合国家性の維持の工夫と努力」に関する思想的営みを歴史的に分析する。

(2) 本研究の着想に至った経緯

研究代表者はこれまで、経済学の成立問題と先行思想の関係の解明、思想史学の意義と特徴は何か、を念頭に研究に従事してきた。この研究の過程で、英蘇の思想的・歴史的文脈の相違（複合国家性）を認識する重要性をより強く認識するようになる。特に に関して、イギリスの複合国家性への着目により、思想史上の様々な結节点的事件の再解釈だけでなく、単一国家的把握に基づく従来の単純化された近代社会像の一面性を浮き彫りにできるとの結論を得た。これに関連して代表者は、日本にとってのモデル国家・社会イギリスの意味を分析してきた。明治期以来、日本は模倣すべきモデルとして近代英国像を利用してきたが、その営みは、そこから日本が学ぶという受動的姿勢だけでなく、自らが理想とする国家像・社会像 単線的で不可逆的な近代化や非宗教化、一元的な統制秩序の確立などを、モデルたる近代英国に見出すという積極的姿勢にも支えられた点を解明した。このモデル化に関する議論でも、イギリスの複合国家的実体と関連する諸問題は軽視されていた。そこで他の欧州諸国を対象とする先駆的な複合国家研究から示唆を得るべく、学際シンポ（2017年）を開催し、イギリス複合国家の実態解明に加えて、それに関する同時代人の認識・叙述という思想史学に対応しい課題の探求が急務との結論を得た。これが本研究の着想に繋がる。

(3) 関連する三つの重要な研究動向と本研究の位置づけ

本計画に係る重要な研究動向は、次の3つである。第一に、イギリス複合国家研究である。古典的には、C. Russell や J. Morrill などが、英愛間や英蘇間の複合統治の諸問題に分析の重点を置き、近年では、J. Scott や H. Helmers などが、英蘇愛と蘭との複合統治関係に注目する。そして本研究が着目するのは、複合国家研究が理論的に2つの問題群 複数の支配領域を統べる領域論的な議論と、複数の支配構造の異なる領域をいかに構成するかという階層的・機構論的な議論を持つべきことの認識に基づく既存研究や、後者に重点を置く既存研究の双方が欠如する現状である。そこで代表者は、二つの問題群を総合しつつ、複合国家の統合の阻害要因の特定と、神話やフィクションなどの共通項を創造・発見する営みとの双方に基づく統合の機構論的な処方箋の提示という思想的営みに焦点を当てた研究計画を立案した。

第二に、(Pocock なども依拠する) 英・蘇・愛の相互関係に着目する三地域接近法に代えて、(L. Colley、J.M. Mackenzie、N. Lloyd-Jones などが提唱する) ウェールズの独自性をも重視する四地域接近法に注目が集まっているが、それに基づく通史的記述の改訂は、19世紀以降が中心で、本研究が対象とする16-18世紀では行われていない。本研究の重点は、従来の四地域接近法が取り扱わない論点、すなわち統合論の典拠の歴史的系譜と事例の範型化の発見・特定に置

かれる。この焦点化によって、過去の統合事例や統合論が後代の統合問題を論ずる際に典拠として重要な働きをするだけでなく、同一宗派地域の統合と異宗派地域の統合を論ずる際に異なる典拠が参照されるような、複数の典拠の系譜を析出可能と考える。この試みは、研究史上、未着手であり、本研究の有意性をなしている。

第三に、イギリス複合国家性を前提にする思想史研究の必要性和重要性は、直接的には蘇や愛の思想的営みからスミスなどの社会科学形成論の分析を進める必要性を強調する文脈において30年以上前に水田洋や竹本洋が指摘したものの、その提言を活かした複合的視点を持つ思想史研究は未だ出現していない現状である。本研究はこの現状に挑戦する意図を有する。

2. 研究の目的

本研究は、以下の4つの研究目的を持つ。

- (1) 複合国家の事実認識とその思想的な概念化とを関連させて分析することで、16世紀から18世紀のイギリスにおける複合国家性を維持する思想的な努力と工夫の在り方を析出。
- (2) 過去の特定の統合事例や統合論が、統合をめぐる後代の議論の一般的な典拠として利用される経緯を分析。その際、16世紀のウェールズ合同や、16-17世紀のSir John DaviesやE. Spenserなどの愛統合論が、後代の統合議論、すなわち17世紀後半の名誉革命期、18世紀初頭の英蘇合邦期、ハノーヴァ継承期の議論などにおいて、典拠的な重要性を持つ点を析出。
- (3) 同質性の高いユニット同士の統合と、そうでない場合の統合とでは、後代の典拠化の様相が異なると推測されるので、統合思想の歴史的な系譜を析出。
- (4) (以上を踏まえて) 統合阻害要因のパターン化と処方箋のModule化の系譜を析出。

3. 研究の方法

本研究は、史資料の文献研究を主体としつつ、複数の研究者から構成される共同研究として、本研究課題に以下の方法によって取り組む予定であったが、新型コロナ・ウィルス感染拡大により、研究会の開催や海外研究者との意見交換は、大幅に規模と回数を縮小して行わざるを得なかった。

第一・二年度に、複合国家イギリス内部の各地域の統合に関する同時代的議論の相互関係とその処方箋の諸相の分析(横軸の解明)、第三・四年度は時代ごとの統合論の特徴や変遷につき、その思想的・事例的な典拠を特定しつつ分析(縦軸の解明)する。共同研究者全員が個別課題(事項で説明)を持ちつつも、そこでの知見を活かしつつイギリス複合国家に関する統合思想の歴史的展開を解明する共同作業に従事する。

共同研究者は、海外の重要図書館・資料館などで資料収集や、海外研究者と意見交換などを行い、研究活動を遂行する。

また研究代表者・分担者からなる年3回程度の研究会を開催し、研究課題に密接に関係する(研究組織外の)研究者を各年度2名招聘し、意見交換を含む研究交流を実施する。

さらに海外研究者を招聘した意見交換を各年度1回程度開催し、各分野の研究動向の知見の吸収と複合国家研究への提言を受け、研究の進展を図る。

4. 研究成果

本研究プロジェクトは、歴史学の複合国家研究から大きな刺激を受けつつ、それを思想史研究として展開する可能性を模索する過程 (1)他の欧州諸国を含めた複合国家研究から示唆を得るための学際シンポ(2017年)の主催、(2)イギリス複合国家に関する思想家の認識・叙述の解明という思想史学に対応しい課題の探求を目的とする本プロジェクトの開始(2019年)、(3)その成果の一端を、岩井淳・竹澤祐丈編『ヨーロッパ複合国家論の可能性』ミネルヴァ書房、2021年(以下、『可能性』と略)として公刊をへて実施された。

本研究プロジェクトは全体として、思想史学と歴史学の対話に基づき、複合国家に関する思想史研究の可能性を明確に提示すると同時に個別分析を推し進めた点で重要な成果を得たものの、二分野間の問題関心と方向性の相違を顕在化させる。『可能性』は、好意的書評(『史学雑誌』131

編5号「回顧と展望」、『歴史学研究』1024号、『エール』41号など)に恵まれ、2回の書評会を開催できたが、それらにおいて歴史学者の多くは、その成果の欧州史への応用を今後の課題に挙げていた。

他方で、上記の点を長期的課題としては認識しつつも、本研究プロジェクトとして残された課題として認識したことは、現状の思想史研究における優先課題は、イギリスの思想家たちが複合国家を維持・発展させる思想的な試みの分析をさらに充実させることにより、思想史学における複合国家研究の意義と意味をより明確化する作業であると考えた。

本研究プロジェクトの成果としては、概略として、複合国家イギリス内部の各地域の統合に関する同時代的議論の相互関係とその処方箋の諸相や、通時的な複合国家の通時的結節の変化の分析を行い、イングランド、スコットランド、アイルランド、ウェールズの4地域の相互関係と紐帯創出の試みの様相、そして過去の統合事例が参照された様相を16世紀から18世紀の期間にわたって体系的に把握することができた。

研究プロジェクト全体の成果の取りまとめの一環として、最終年度には、3名の研究メンバーによる研究報告を、日本イギリス哲学会の公募セッションで行った。ここでは、以下の3点を主張した。第一に、思想史研究における複合国家論を先導するポーコックの議論を詳細に分析し、その重点が、イングランド中心なブリテン国家・社会の形成・維持の動きの解明にあることを明確化した。第二に、ロックの議論において、複合国家に関する歴史叙述が戦略的なされていること、第三に、モリニューのアイルランド統治論における王権の位置づけが、その後のアメリカ独立期の議論との類似性や影響関係の解明からも分析可能であることを説得的に提示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 岩井淳	4. 巻 17
2. 論文標題 英米のピューリタニズムとコモンウェルス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ピューリタニズム研究	6. 最初と最後の頁 3～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 木村俊道	4. 巻 22
2. 論文標題 政治思想の「振舞い」 統治のアートとシヴィリティをめぐる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 政治思想研究	6. 最初と最後の頁 96～122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 桑島秀樹	4. 巻 1913
2. 論文標題 アイルランドの絶景、描かれる狂気の友情	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 キネマ旬報	6. 最初と最後の頁 55～57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 桑島 秀樹、浅野 敏久、藤岡 亜弥、松田 弘	4. 巻 3
2. 論文標題 報告・広島大学大学院人間社会科学研究科設立記念セミナー第1回「美術館×広島大学×アーティストの共演：感性知を活かす市民づくり・街づくり（人間総合科学プログラム主催オンライン・シンポジウム）」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要・総合科学研究	6. 最初と最後の頁 29～47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/53570	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑島秀樹	4. 巻 2022
2. 論文標題 山陰 / 出雲で覚醒した ハーン = 八雲の「痛苦反転」的な感性デザインの文化力 パーク崇高美学を参照しつつ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 2022 International Design Trend Symposium and Forum Proceedings (Korean Society Design Trend)	6. 最初と最後の頁 28 ~ 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島渉	4. 巻 46
2. 論文標題 (書評)ステファン・コリーニ著、近藤康裕訳『懐古する想像力 イングランドの批評と歴史』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 55 ~ 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井淳	4. 巻 17
2. 論文標題 しょう清水「臨床講義」の今日的意義 : 20世紀前半の台湾文化協会と民族運動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア研究 (静岡大学人文社会科学部)	6. 最初と最後の頁 3 ~ 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 http://doi.org/10.15027/52018	4. 巻 2
2. 論文標題 18世紀アイルランド人画家ジェイムズ・バリーによる小品肖像画《ニュージェント博士像》とそこからの発展的逸脱 : パトロン・大陸遊学・アカデミー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 総合科学研究	6. 最初と最後の頁 1 ~ 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/52018	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑島秀樹	4. 巻 45
2. 論文標題 アイルランドの哲学・思想（芸術・宗教・科学を含む）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 85～88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 涉	4. 巻 30
2. 論文標題 （書評）上村剛『権力分立論の誕生 ブリテン帝国の「法の精神」受容』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asterisk	6. 最初と最後の頁 49～52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安武真隆	4. 巻 48
2. 論文標題 [Lecture] Book Review Session: Taira NISHI, Recht und Macht : zur Genealogie der internationalen Politologie, Nagoya : The University of Nagoya Press, 2018	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ノモス = Nomos	6. 最初と最後の頁 113～114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/00025109	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 安武真隆	4. 巻 3507
2. 論文標題 共和主義が政治経済学が 従来手薄であったモンテスキューの経済思想に踏み込む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 5～5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安武真隆	4. 巻 45
2. 論文標題 書評 上村剛 『権力分立論の誕生：ブリテン帝国の『法』の精神』受容』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 40～43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安武 真隆	4. 巻 66
2. 論文標題 対外的脅威の政治思想に向けての覚書 ジャン・ボダン『国家六篇』を手掛かりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 続・戦争と統治のあいだ	6. 最初と最後の頁 33～60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/00026373	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹澤祐丈	4. 巻 2021年第5・6号
2. 論文標題 『オシアナ』における統合と拡張 ジェームス・ハリントンの属州論における平等性の観点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 508～539
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井淳	4. 巻 840号
2. 論文標題 今井宏『イギリス革命の政治過程』 「宮廷」対「地方」論の意義と限界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 リンダ・コリー著、岩井淳訳	4. 巻 71号の1
2. 論文標題 合同と離脱の営み 何が連合王国をまとめ、分裂させているのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡大学人文論集	6. 最初と最後の頁 113-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑島秀樹	4. 巻 256号
2. 論文標題 書評・星野太『崇高の修辞学』（月曜社、2017年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美学（日本美学会編）	6. 最初と最後の頁 169-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森直人	4. 巻 21巻
2. 論文標題 商業社会のリヴァイアサン：越境の時代の「自治」を考える糸口として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際社会文化研究	6. 最初と最後の頁 77 - 108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 桑島秀樹	4. 巻 5号
2. 論文標題 AIは 味覚/趣味 の精妙さを思考しうるか E・パーク美学で読む人間的成熟と崇高な嗜好	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 嗜好品文化研究	6. 最初と最後の頁 3-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑島秀樹	4. 巻 34号
2. 論文標題 〔書評〕 Sora Sato, Edmund Burke as Historian: War, Order and Civilization(Palgrave Macmillan, 2018)、日本18世紀学会編『日本18世紀学会年報』第34号、2019年6月、pp. 95-96。	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本18世紀学会年報	6. 最初と最後の頁 95-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井淳・山田一雄	4. 巻 70号の1
2. 論文標題 ジョン・リルバーンの迫害体験と宗教思想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 静岡大学人文論集	6. 最初と最後の頁 109-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井淳	4. 巻 24
2. 論文標題 世界史の視点から考える「歴史総合」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 50-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jun IWAI	4. 巻 22号
2. 論文標題 The State of History Education in Local Universities: The Case of Shizuoka University	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア太平洋論叢	6. 最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村俊道	4. 巻 43号
2. 論文標題 書評 Keith Thomas, In Pursuit of Civility: Manners and Civilization in Early Modern England	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 105-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toshiichi KIMURA	4. 巻 45号
2. 論文標題 Comments on Daniela Coli's 'Hobbes's Rome: Between Tacitus and Machiavelli	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ノモス (関西大学法学研究所)	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑島秀樹	4. 巻 39号
2. 論文標題 〔書評(への応答)〕: 桑島秀樹「中澤信彦・桑島秀樹編『パーク読本: 保守主義の父 再考のために』に対する後藤浩子氏書評への编者からの応答	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エール (アイルランド研究)	6. 最初と最後の頁 101-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 13件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 英米のピューリタニズムとコモンウェルス
3. 学会等名 日本ピューリタニズム学会第17回研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 近世史から「歴史総合」を考える
3. 学会等名 東海中学・高校土曜市民講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 ブリテン近代史研究の3つの焦点 千年王国、複合国家、歴史教育
3. 学会等名 岩井淳先生退職記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 桑島秀樹
2. 発表標題 『イニシエリン島の精霊』が描く、人間、自然、そして芸術を語り尽くす（聖パトリック祭2023特別企画アフタートーク）
3. 学会等名 広島・アイルランド交流会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武井敬亮
2. 発表標題 ウィリアム・モリニューのアイルランド統治論における複合性認識
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第47回研究大会（セッション「思想史研究における複合国家論の射程」）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 安武真隆
2. 発表標題 ロック『統治二論』におけるスコットランド
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第47回研究大会（セッション「思想史研究における複合国家論の射程」）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹澤祐丈
2. 発表標題 J・G・A・ポーコックの複合国家論の特徴とその可能性
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第47回研究大会（セッション「思想史研究における複合国家論の射程」）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹澤祐丈
2. 発表標題 梅田百合香『ホブズ リヴァイアサン』に関するコメント
3. 学会等名 第258回 経済学史研究会（関西学院大学）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 20世紀前半の台湾文化協会と民族運動 しょう涓水「臨床講義」の今日的意義
3. 学会等名 シンポジウム「台湾夢2049 超現代臨床講義」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 「三つのブリテン革命」を考える ピューリタン革命・名誉革命・独立革命
3. 学会等名 初期アメリカ研究学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 三つのブリテン革命再考 独立革命期におけるピューリタン革命・名誉革命の受容
3. 学会等名 イギリス革命史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木村俊道
2. 発表標題 政治思想の「振舞い」 統治のアートとシヴィリティをめぐって
3. 学会等名 政治思想学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桑島秀樹
2. 発表標題 アイルランドと司馬遼太郎
3. 学会等名 日本アイルランド協会 2021年度公開講座・関西（オンライン開催）：「日本人作家とアイルランド」シリーズ第1回（後援：大阪経済大学 日本経済史研究所）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桑島秀樹ほか
2. 発表標題 (基調報告) パーク美学からみた人間身体・女性的なるもの・野蛮
3. 学会等名 第28回日本アイルランド研究年次大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桑島秀樹
2. 発表標題 E・パークの崇高美学をコロナ以後の時代にひらく 新たな 危機の時代 への応用可能性
3. 学会等名 第46回 日本イギリス哲学会シンポジウム 「雑談・孤独・崇高：コロナ禍以後に向けたイギリス哲学・思想の射程」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森直人
2. 発表標題 ヒュームにおけるコンヴェンションと党派の関係について
3. 学会等名 日本イギリス哲学会 第65回関西部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武井敬亮
2. 発表標題 ジョン・ロックのカトリック寛容について 新たに発見された手稿を中心に
3. 学会等名 七隈史学会第23回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹澤祐丈
2. 発表標題 ジョン・デイヴィス(1569-1626)のアイランド論再考
3. 学会等名 日本イギリス哲学会関西支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 近代化と私たち テキスト構想案 改訂版
3. 学会等名 高等学校歴史教育研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 新学習指導要領と「市民革命」再考
3. 学会等名 静岡大学地歴教員養成講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桑島秀樹
2. 発表標題 (WS提案者トーク) 未来を拓く視座: 感性/趣味の涵養による生の充実社会の構想 メタモルフォーシスとアート・シンキング
3. 学会等名 第1回学術知共創プロジェクトワークショップ「分断社会の超克 共感・共創・共生」、文部科学省委託事業「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桑島秀樹
2. 発表標題 (市民講座) 極西と極東の感性のかたち 司馬遼太郎の 愛蘭土 と 倭 への旅
3. 学会等名 はびきの市民大学「異国の文化との歴史的な邂逅 関西文化と感性のかたちをめぐって」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桑島秀樹
2. 発表標題 辺境 島国の感性のかたち アイルランド美学を参照軸として
3. 学会等名 沖縄県立芸術大学芸術学専攻・特別講座(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 近代化と私たち テキスト構想案 改訂版
3. 学会等名 高等学校歴史教育研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun Iwai
2. 発表標題 The Situation of Local Universities: The Case of Shizuoka University
3. 学会等名 Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality in August 2019 (大阪大学佐治敬三メモリアルホール)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 イギリス革命から考える革命の連鎖史
3. 学会等名 愛知県高等学校社会科研究会主催の講演会 (2019年12月3日、於・東海中学・高校) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森直人
2. 発表標題 越境の時代の自治とは何か - 思想的観点から -
3. 学会等名 高知人文社会科学会・「高知に関する人文学・社会科学の拠点づくり」プロジェクト、高知、2019年11月6日)。
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 岩井 淳、山崎 耕一 (編著) (岩井淳の執筆部分)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 352
3. 書名 比較革命史の新地平	

1. 著者名 岩井 淳、道重一郎 (編著) (岩井淳と竹澤祐丈の執筆部分)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 複合国家イギリスの地域と紐帯	

1. 著者名 日本18世紀学会『啓蒙思想の事典』編集委員会（編）（森直人と安武真隆の執筆部分）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 714
3. 書名 啓蒙思想の百科事典	

1. 著者名 岩井 淳、竹澤 祐丈（編著）（岩井淳、竹澤祐丈、木村俊道、桑島秀樹、森直人、佐藤一進、武井敬亮、中島渉、安武真隆の執筆部分）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 356
3. 書名 ヨーロッパ複合国家論の可能性	

1. 著者名 岩井淳、岡田健、川喜田敦子、君島和彦、木村茂光、戸川点、日高智彦、茂木敏夫、安井崇、油井大三郎（岩井淳の執筆部分）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 浜島書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 資料と問いから考える歴史総合	

1. 著者名 R.J.W.Mills and Craig Smith (eds.) (Naohito Moriの執筆部分)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Edinburgh University Press	5. 総ページ数 264
3. 書名 The Scottish Enlightenment: Human Nature, Social Theory and Moral Philosophy: Essays in Honour of Christopher J. Berry (Naohito Mori, 'Civility and Slavery: the problematic basis of civilized society in Hume's history of England')	

1. 著者名 野口 雅弘、山本 圭、高山 裕二（編著）（佐藤一進の執筆部分）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 よくわかる政治思想（佐藤一進「パーク」）	

1. 著者名 木村 俊道	4. 発行年 2020年
2. 出版社 風行社	5. 総ページ数 318
3. 書名 想像と歴史のポリティックス	

1. 著者名 桑島秀樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 273
3. 書名 司馬遼太郎 旅する感性	

1. 著者名 石崎嘉彦&厚見恵一郎編著（佐藤一進の執筆部分）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 352
3. 書名 レオ・シュトラウスの政治哲学：『自然権と歴史』を読み解く	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩井 淳 (Iwai Jun) (70201944)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	木村 俊道 (Kimura Toshimichi) (80305408)	九州大学・法学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	桑島 秀樹 (Kuwajima Hideki) (30379896)	広島大学・人間社会科学研究科(総)・教授 (15401)	
研究分担者	森 直人 (Mori Naohito) (20467856)	高知大学・教育研究部人文社会科学系人文社会科学部門・准教授 (16401)	
研究分担者	佐藤 一進 (Sato Takamichi) (00554312)	神戸学院大学・法学部・准教授 (34509)	
研究分担者	武井 敬亮 (Takei Keisuke) (90751090)	福岡大学・経済学部・准教授 (37111)	
研究分担者	中島 涉 (Nakajima Wataru) (20453962)	明治大学・商学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	安武 真隆 (Tasutake Masataka) (00284472)	関西大学・政策創造学部・教授 (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------